



<N0178>

ギンリョウソウ（銀竜草）

植物といえば緑色。これは誰もが常識的に認識していることである。葉緑素を持ち、光合成によって栄養分をつくっている生き物を普通、植物と呼ぶ。ギンリョウソウは全身が半透明な白色をしていて、植物の常識的なイメージに合わない。

ギンリョウソウは土中の菌類の働きを介して、たい肥化した落ち葉などから栄養分を獲得している。言わば、他の植物が作った有機物を栄養分として利用する植物なのだ。こうした仲間を腐生植物と言い、光合成は行なう必要がないため葉緑素を捨て葉も退化させ、幻想的な姿となったのである。

新分類体系ではツツジ科シャクジョウソウ亜科の多年草。腐葉土の多い雑木林の林床に生育する。同じ仲間にあキノギンリョウソウがある。



ノビル（野蒜）

<NO178>

ノビルは、花が咲き種子ができるはずの花穂の先端に、紫褐色で固い小さな球根のようなむかご（球芽）をつく

り、このむかごを種子の代わりに散布する。また、地下の球根が分球することによっても繁殖する。種子の散布と合わせて3通りの繁殖方法を持った植物である。

球根（鱗茎）は野草として食べられる。タマネギに似た香りと辛味があり、ヌルツとした食感が食欲をそそる。旬は春で、味噌をつけた生食がおいしい。

筆者は子供の時、庭の地面にできた小さな虫穴にノビルの茎を差し込み、ハチ釣りをして遊んだことがある。香気の強さにハチが反応したのだろうか。ノビルは人里近の畑地周辺や土手に沢山の個体がまとまって群生することが多い。ヒガンバナ科ネギ属の多年草。